令和５年度　事業報告書

令和５年４月１日から令和６年３月 31 日まで

NPO 法人みやっこベース

１　事業の成果

青少年育成支援事業において、昨年度後半にリニューアルしたみやっこハウスを通年で運営し、小学生から高校生まで約 1300 人が利用した。子どもたちとの日常的な関わりが増え、スタッフへの信頼感を抱いてくれたこともあり、日ごろの悩みを打ち明けたり、進路についての相談を受ける機会が増えた。その他、不登校の中学生の継続利用があったほか、学校から不登校傾向の生徒の居場所として活用してよいかという複数の問い合わせがあった。全国的に不登校の生徒が増えている現状で当法人が担うべき課題の一つを認識させられたことから、今後も様々な事例を調査し、子どもや家庭が抱える課題に寄り添っていきたい。

初めての実施となった「みやっこネイチャークラブ」では、宮古市内の各地で自然体験活動の機会づくりを行い、9 人の小学生が参加した。参加者からは高い満足度を得ることができ、「来年も参加したい」「来年は船釣りがしたい」など、地域資源の認知、意欲や好奇心が高まっていることを感じる。保護者からは「親だけではなかなか自然遊びに連れていくことができないのありがたい」などの声を聞くことができ、継続的な事業実施を検討していく必要性を感じた。

6 回目となった「みやっこタウン」は、廃校となった旧赤前小学校を会場として開催。市内の小学 4～6 年生 136 人が参加した。参加した子どもからは「またきて仕事したい」「友だちとのきずなも深まった」「来年は運営側をやりたい」、保護者からは「お仕事の大変さがわかり、将来のなりたい職業の選択肢の幅が広がった」「自分に自信が付いたのか前よりも自分の意見をはっきりと言えるようになった気がします。イベントなどに積極的に行きたいと言うようになった」などの感想があり、地域理解の促進、コミュニケーション力や主体性などの非認知能力の向上につながったと感じる。また、みやっこタウン翌日には、同会場において、スピンオフ企画として「みやっこフェス」を初開催し、みやっこタウンで使うことができる疑似通貨ベスカを活用して、子どもたちによる子どもたちのためのイベントを開催した。参加した子どもたち自身が、みやっこタウンより更に自主的に役割を担い、楽しみながらイベントを作り上げている場面が見られた。

小学生を対象とした「防災ワークショップ」を開催し、災害や防災に関しての知識を得るとともに、怪我の応急手当の方法など災害時に実践できることについても体験的に学ぶ機会を作ることができた。東日本大震災から 13 年が経過し、現在の小学生は震災後に生まれた世代であることから、今後も継続的に災害や防災についての学習機会を作っていく必要性を感じる。

「働く」という事業領域においては、ルーキーズカレッジや経営者・人事担当者向けセミナーなど、地域の若手社会人が働きやすい環境づくりに努めるほか、実践型インターンシップのコーディネートを通して経営者のサポートを行うことで、地域に魅力的な雇用が生まれるきっかけづくりを行った。

新規事業として、宮古市産業支援センターと協働で「取材型インターンシップ」を開始。宮古市内の 7 社に 7 人の大学生が取材を行い、企業の魅力を伝える記事を 24 本発信した。

復興庁「被災者支援コーディネート事業」の一環として、宮古市、山田町の NPO 法人など支援団体への訪問、課題の聞き取り調査、課題解決に向けた企画調整を行った。

２　事業の実施に関する事項

(1)　特定非営利活動に係る事業

事業名	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額（千円）
青少年育成支援事業	居場所づくり	通年	宮古市内	4名	宮古市内の小中高生のべ1336人	7,328
	体験活動の機会創出	通年	宮古市内	4名	宮古市内の小学生約160人	5,072
	地域活動の支援	通年	宮古市内	3名	宮古市内の高校生18人	975
	学校との連携協働	通年	宮古市内	2名	宮古北高校、宮古商工高校の生徒約360人	487
社会環境整備事業	キャリア形成支援	通年	宮古市内	3名	宮古管内の若手社員のべ約82人	1,268
	地域企業の人材確保・育成支援	通年	宮古市内	3名	宮古市内企業11社、40人	2,216
その他の事業	まちづくり・コーディネート事業	通年	宮古市内、山田町内	3名	宮古市民、宮古市内・山田町の地域活動団体等	451
	組織基盤強化	通年	宮古市内、オンライン	4名	職員	1,683
	関係団体との連絡調整	適宜	宮古市内、オンライン	2名	宮古市内および岩手県内の関係団体	50